

新潟大学 外国語学習支援スペース FL-SALC 平成 25 年度第 2 学期活動報告

<英語>

開設初年度の第 2 学期には、第 1 学期の利用状況に基づいて英語チャットの回数を大幅に増やし、あらたに日本人学生によるワークショップや学習会等を開催した。さらに、教員有志によるライティング・センターを開設するとともに、英語学習アドバイザーによる短期集中型のテーマ別学習会を実施した。本稿では、まず第 2 学期の活動参加者数を報告し、つぎに最も利用者の多い「英語チャット」について、参加者（主に日本人学生）と英語チューター（会話をファシリテートする留学生）からの意見や感想を紹介する。

I. 活動参加者数

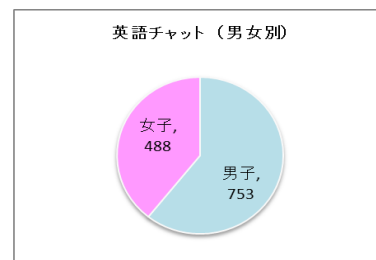
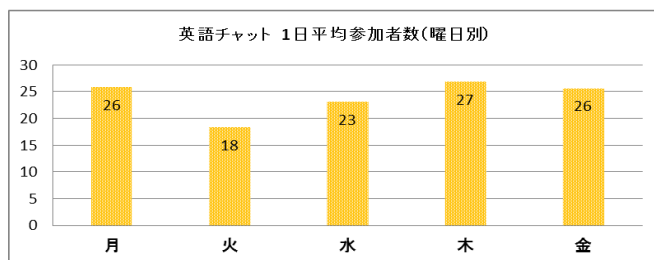
総数（延べ人数）：2,089

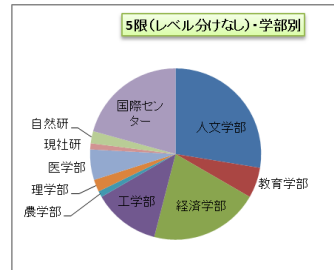
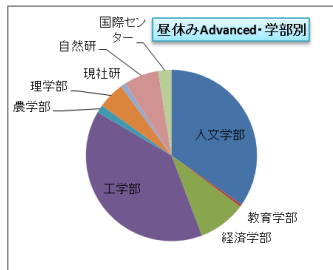
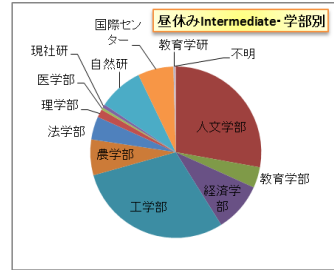
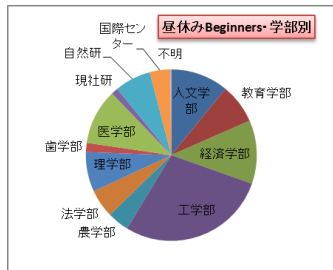
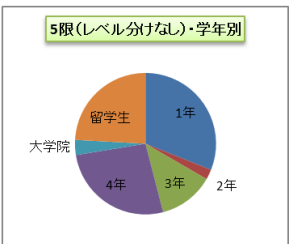
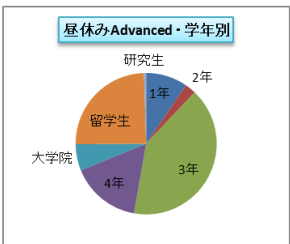
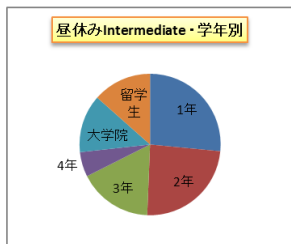
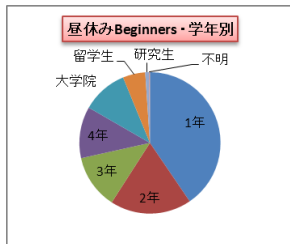
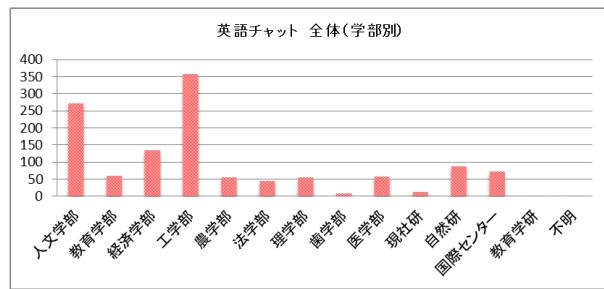
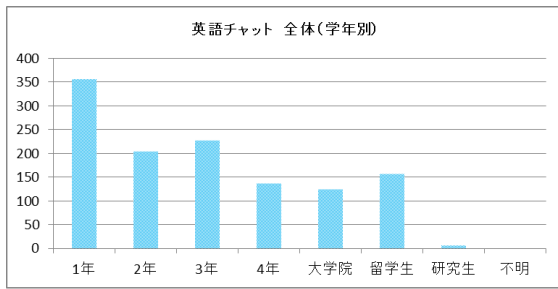
※授業期間中の活動：英語チャット 1241、カウンセリング 88、ミニワークショップ 46、グループ学習 121、ライティング・センター 53、アドバイザーによる Study Group 28、特別ワークショップ 171

※春期休業中の活動：英語チャット 92、カウンセリング 31、ミニワークショップ 3、アドバイザーによる Study Group 197、日本人学生（英語チューター）による学習会 18

1. 授業期間中の活動（10月7日（月）～2月3日（月） - 学期末試験開始前日まで）

●英語チャット（2階 FL-SALC 内およびその近辺にて実施）

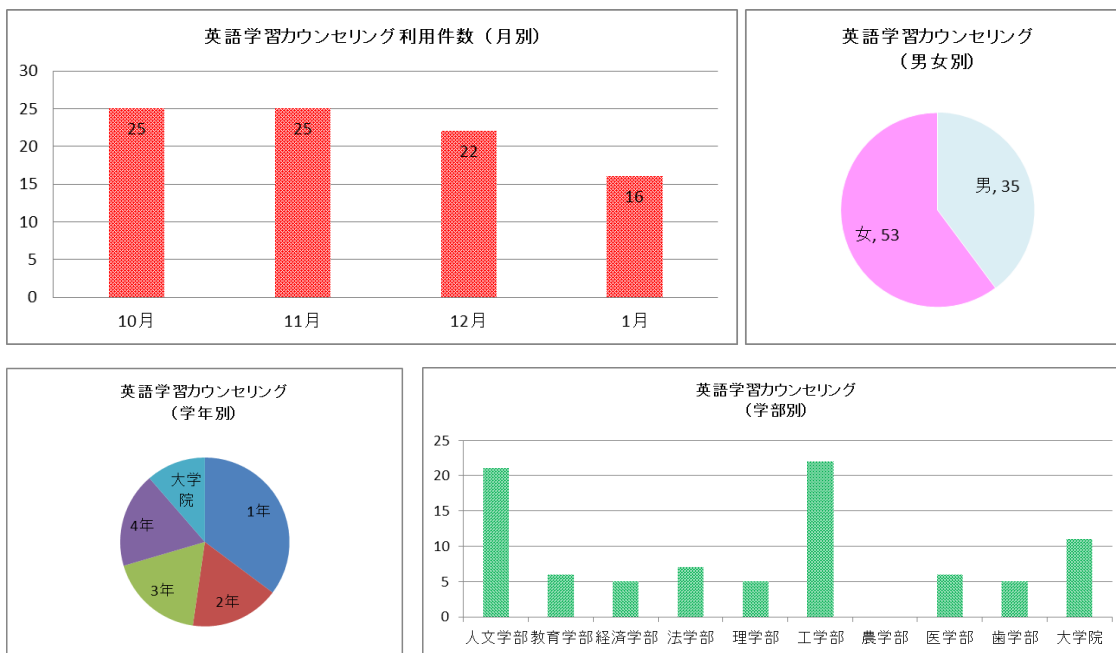




- 第1学期同様、英語による異文化コミュニケーションの実践の場として位置づけ、教員やアドバイザーは介入せずにしてすべて学生同士の自主性に任せた。第2学期からは、昼休みのチャットを緩やかなレベル (Beginners, Intermediate, Advanced) に分けて実施。TOEICスコア等でおよそのレベルを示し、参加者自身が選択できるようにした。
- 様々な文化的背景や価値観を持つ留学生を英語チューターとして8名雇用した。内訳は、中国 (西安) 1名、スリランカ 1名、アメリカ 1名、中国 (台湾出身、カナダに12年間居住) 1名、イギリス 2名 (うち1名は中東での居住経験あり)、トルコ 1名 (オランダとの二重国籍)、オーストラリア 1名 (母親がフィリピン出身)。
- 今後の課題：
 - ・ 中級レベルの学生がビギナーズ・チャットに頻繁に参加したため、英語の苦手な学生が躊躇してしまうことがあった。

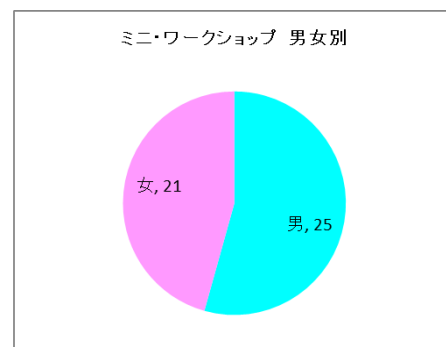
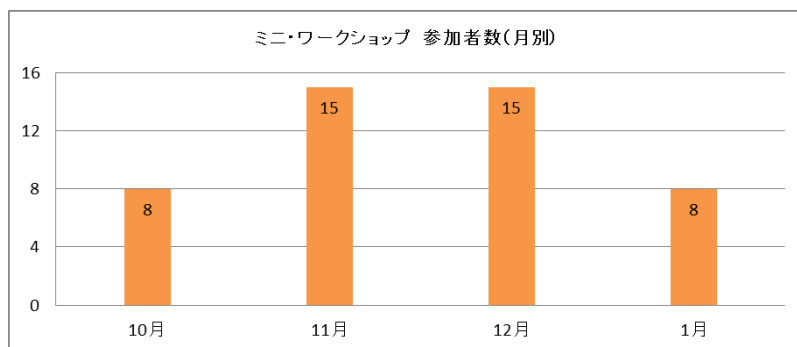
- ・ 利用者がより積極的に、かつ他人にも配慮しつつ参加できるよう、利用者向けのマナー&表現集を作成する。
- ・ 英語チューター業務のガイドラインを作成し、参加者との間および英語チューター間での異文化間コミュニケーションの促進を図る。

●英語学習カウンセリング（2階少人数ブースにて実施）



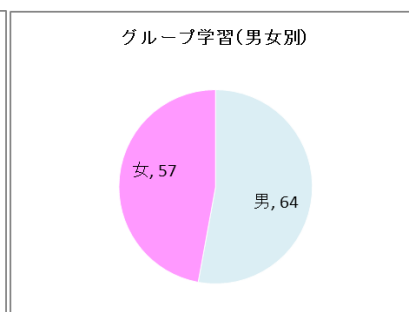
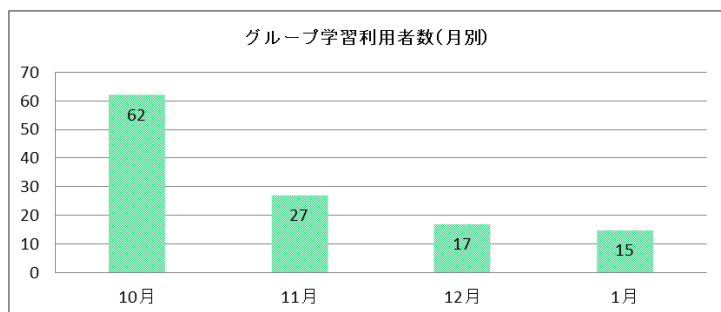
- 英語学習カウンセリングでは、利用者が英語の「学び方を学ぶ」ことによって、自律した学習者となることを主な目標としている。そのために、個別の学習相談シートを作成し、学習目標の設定、教材の選定、学習計画の策定、ふりかえり等のサポートを行った。
- 第2学期の主な相談内容
 - ・ 英語の公的検定試験対策（TOEIC、TOEFL、IELTS、英検等）54%
 - ・ 特定スキル（4技能、語彙、文法、発音）21%
 - ・ 留学に関する相談 9%
 - ・ 目標設定・学習計画 6%
- 今後の課題：
 - ・ 英語の苦手な学生の利用を促進する。

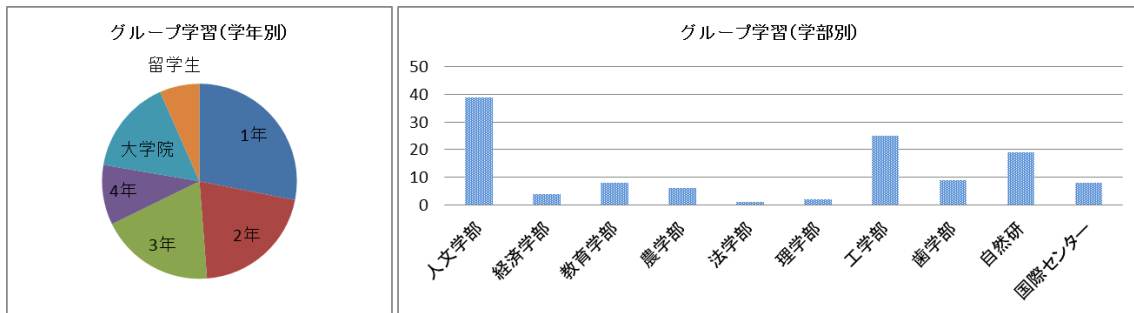
●英語学習アドバイザーによるミニ・ワークショップ（2階プレゼンエリアにて実施）



- 英語学習カウンセリングの新規利用者開拓を主な目的として、英語学習アドバイザー（業務委託）が主に第2・第4水曜日の昼休みを利用して様々なテーマで実施した。
- 第2学期ミニ・ワークショップ（各回 12:00-12:30）
 - ・ 10月9日（水）「学習素材選びの極意」（参加者0名）
 - ・ 10月23日（水）「ドラマ『フレンズ』を使って、生きた英語を身につけよう」（参加者8名）
 - ・ 11月13日（水）「『瞬間英作文』に挑戦！瞬発力を鍛えて楽しくトレーニング」（参加者9名）
 - ・ 11月27日（水）「プチプレゼンで自信を持って話せる自分になろう」（参加者6名）
 - ・ 12月11日（水）「ウェブサイト徹底活用術：私だけの教材みつけてみよう」（参加者10名）
 - ・ 12月24日（火）「FL-SALCでプチ・クリスマス気分を」（参加者5名）
 - ・ 1月22日（水）「毎日5分『英語日記』で新習慣を作ろう！」（参加者7名）
 - ・ 1月29日（水）「2014年はどんな年？自分の英語ライフをデザインしてみよう♪」（参加者1名）
- 第2学期は、通りすがりの学生も気楽に参加できるようオープンスペース（2階プレゼン・エリア）で実施した。

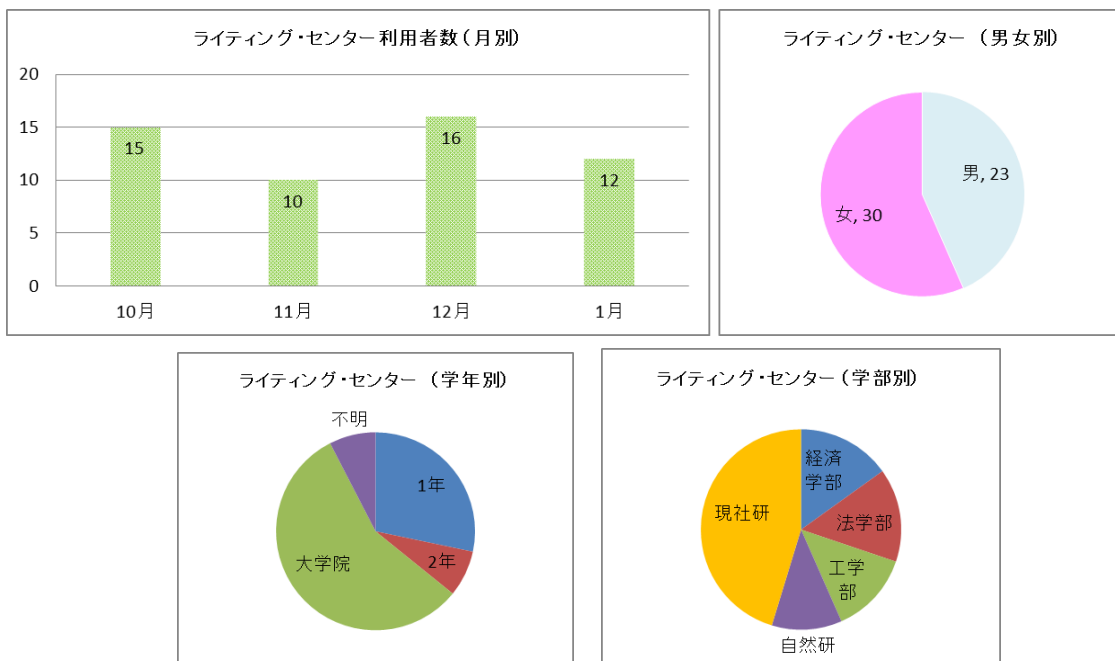
●自由参加型グループ学習（3階グループ学習室にて実施）





- 第2学期は主に英語の成績下位者をターゲットに開催した。
- 第2学期テーマ別グループ学習
 - ・ 火曜 12:00-12:30「英語チャットで使える便利な表現」(担当:教育・学生支援機構准教授 ハドリー浩美)
 - ・ 水曜 10:30-11:30「英語音声聴き取りの基礎」(担当:人文社会・教育科学系准教授 秋孝道)
 - ・ 木曜 12:15-13:15「英文法をもう一度 Part 2」(担当:人文社会・教育科学系准教授 平野幸彦)
- 今後の課題:
 - ・ 学生がいつでも気軽に参加できるよう飛び入り歓迎の「一回完結型」を模索したが、英語学習はそれになじまない場合が多く、学生も教員も消化不良の感が否めなかった。次年度は、学生の継続的な参加を奨励するために、基本的に事前登録制とする。
 - ・ 英語が苦手な学生が参加しやすい工夫が必要。

●アカデミック・ライティングセンター (3階グループ学習室にて実施)



- 第 1 学期には教員有志が総合教育研究棟内でライティング指導を行っていたが、第 2 学期からは FL-SALC のライティング・センターとして、毎週木曜 11:50-12:50 に開室。担当は教育・学生支援機構准教授 ジョージ・オニール。

●英語学習アドバイザーによる Study Group

- TOEIC Study Group (事前登録制。12 月 13 日～1 月 31 日毎週金曜、2 限・3 限・4 限ただし年末年始および 1 月 17 日 (金) 休み、参加者 28 名)
- カウンセリング利用者数が伸び悩んだため、新企画として小グループでの短期学習会を実施した。参加者数は予想を上回り、終了後に継続を希望する学生もいた。

●特別ワークショップ (各回 12:00-12:30)

- 10 月 2 日 (水)「e-learning 教材 Let'Talk Online を使用した効果的な学習方法について」ケンブリッジ大学出版局 デイビッド・モジャー氏 (参加者 54 名)
- 10 月 16 日 (水)「e-learning 教材 English Central プレミアムを使用した効果的な学習方法について」成美堂 羽田克夫氏 (参加者 21 名)
- 12 月 4 日 (水)「留学せずに英語がペラペラになるには？」人文学部 4 年小池隆太郎君 (参加者 55 名)
- 1 月 15 日 (水)「e-learning 教材 Criterion を使用した効果的な学習方法について」CIEE シニア・コーディネーター 山口学氏 (参加者 41 名)
- 以上のうち業者によるワークショップ 3 件は、平成 24 年度に図書館の協力で試行的に導入した e-learning 教材の利用促進、および FL-SALC 新規利用者開拓を目的として実施した。学生によるワークショップは、発表者が参加者の near peer role model となることを期待して実施した。

2. 春期休業中の活動

●英語チャット

- 2 月 28 日 (金) ～3 月 20 日 (木)、平日 11:50-12:50 (レベル分けなし、参加者 92 名)

●英語学習カウンセリング

- 利用者 31 名

●英語学習アドバイザーによるミニ・ワークショップ

- 3 月 26 日 (水)「多読マラソンのススメ！～1 年間で何冊読めるかな」(参加者 3 名)

●英語学習アドバイザーによる Study Group

- 春休み TOEIC Study Group (事前登録制。2月17日(月)～2月28日(金)2限、3月3日(月)～3月14日(金)3限、ただし2月25日(火)、26日(水)、3月12日(水)は図書館閉館のため休み、参加者94名)
- 春休み短期・長期留学準備 Study Group (事前登録制。2月17日(月)～2月28日(金)3限、3月3日(月)～3月14日(金)2限、ただし2月25日(火)、26日(水)、3月12日(水)は図書館閉館のため休み、参加者103名)

●日本人英語チューターによる「Let's Study English」

- 2月17日(月)～2月21日(金)、3月3日(月)～3月20日(木)、月・水・木 12:00-16:00、火 10:30-12:30・15:00-17:00、金 10:00-14:00、ただし3月12日(水)は図書館閉館のため休み、参加者18名)

II. 英語チャット参加者の意見・感想 (原文のまま)

1. 英語チャット利用者

- ・ 楽しいです。
- ・ 少人数だったのが、良かったです。
- ・ 参加してとても良かった。
- ・ 留学生ががんばってくれてうれしい。
- ・ 難しいけど勉強になる。
- ・ 人数が多い日は話す機会が少なくなる。
- ・ いろんな国の留学生の方もいらっしゃる、色々な英語に触れられています。
- ・ 沢山の外国人と英語を話せて楽しい。
- ・ 外国人と話すことに慣れることが出来ると思った。
- ・ 英語に慣れることが出来たと思う。
- ・ いろんな国の話を聞けて楽しい。
- ・ 私はビギナークラスに参加させて頂いていますが、ビギナークラスにもレベルの差があるように感じます。
- ・ 3つのブースの内1つは英語に苦手意識をもっている人達専用のブースにすると発言が少ない人が減るかもしれません。
- ・ Discussion、Chatting などテーブルによって目的を分けて欲しい。難易度ではなく。
- ・ すごく役立っている。もっと時間を増やしてもらえれば嬉しい。もっとブースを増やして欲しい。
- ・ 留学生がローテーション組んでやってくれるのはすごく良いと思う。だんだん話

す内容がなくなってくるので、ネタ帳みたいなものがあればと思う。来期は今よりも多くするか現状の回数を保って欲しい。

- 話題がなくなる時がある。 1人の人が多く話すのでほとんど喋れない人もいる。
- レベル別にしているが、あまり意味をなしていない→英語を母語としていなくても留学生は上手だが、中級にあつまっていることがある。
- 以前と比べて多くのグループに分けたことで前期と比べると参加しやすくなった。
- 会話は聞いて理解できるが、思っていることを話すことができない。なので積極的に利用してレベルアップしたい。
- みんなが練習をしにきているので、しっかりと聞いてくれるため間違いをきにすることなく話せるのがいいです。
- 日によって難易度が違う。
- 海外について知ることができて、リスニングにも役立っています。
- 英語に触れる機会が出来て良い英語学習の場だと思う。また、積極的に英語を使う必要性を感じた。
- 春休みも英語チャットの時間を設けてほしいです。

2. 英語チューター（英語チャット担当の留学生、8名中6名回答）

- (a) What were your reasons for applying for the English Tutor position?
- (b) How has the experience as an English tutor helped you?
- (c) What was it that you did not enjoy as an English tutor?
- (d) For the betterment of chat sessions, do you have any suggestions?

英語チューター1

- (a) I was looking to make some Japanese friends if possible through tutoring experience.
- (b) I learned how most Japanese view about studying English.
- (c) Nothing. I really enjoyed it.
- (d) Personally, I would suggest like I mentioned before, make it into more like exchange of languages. That way, people might feel less stressed about teaching or learning, it will be even more casual.

英語チューター2

- (a) I was asked to participate and thought it would be a good way to help students improve English as well as a good way to get to know students at the university.

- (b) I learned how to communicate more effectively with students and adapt to students with different levels of English proficiency.
- (c) Topics could be repetitive in the Beginner level chats. While some of that is unavoidable, since students can be nervous about bringing up topics on their own, it can make it hard to gauge how much they are getting out of the experience.
- (d) More reserve chairs would be nice, especially during times when the library gets crowded. Something like having a few folding chairs to place at tables when the normal seats are full, so prospective participants aren't discouraged when they don't see an open seat right away.

英語チューター3

- (a) Honestly speaking, I never autonomously applied for the position. I was invited for the position by a staff member when they happened to overhear me speaking English at the International Centre and then was asked if I would be interested. However, if I had had heard about this position in the previous semester I would have definitely applied for it not only for the experience of working during my exchange program (which was something I was determined to do while in Japan), but also because I personally like helping people improve their English and in exchange, learn more about Japanese. It was also a good way to be more a part of university and campus life.
- (b) Without a doubt [English Chat] acted as a doorway for me to meet Japanese students who were interested in getting to know foreign students. Something I found whilst being in Japan is that not all Japanese students at university are interested in befriending foreigners especially because of the language barrier so I had had a difficult time making Japanese friends. At English Chat, as participants were keen to learn English and already anticipated that my Japanese language levels would not be so advanced, I was able to meet and befriend a lot of like-minded and keen people. My experience at Chat has also given me more confidence in my ability to teach. Prior to this position, I never at all considered taking tutoring or teaching-type positions as part-time jobs because I believed I didn't have the patience, the people skills or even the knowledge to be able to tutor. My time at Chat has taught me that I am actually equipped to mentor and help other people in terms of English language study and now I am applying for tutoring positions when I

return to [my home country].

- (c) For one thing, as I worked at Chat seven times a week - with two days where I had two sessions in a day - it became, at one stage, very difficult to find topics to talk about. Using prepared topics helped to an extent, but there were some days where I thought my chat was becoming quite boring. It was also hard to gauge whether some students in my chat had already discussed a similar topic with another tutor from a different session. I remember one time when I asked about their Winter Holidays, one of the students complained that they had already answered the same question with some other tutor the day before. It was a little embarrassing. On that note, there were also times when a student who had become friendly with me was too brazen or ... I guess, "outspoken" or "thoughtless" during our chats. Topics that would have been ok to talk about outside Chat was brought up during the session, and it made me uncomfortable as a tutor especially as it was not very professional. At the same time, and this may be a personal failure of mine, I wasn't sure how to control or discipline these students to indicate that they shouldn't talk about such things during chat... I also had a bad experience when two students who were from my Japanese language class came and then refused to participate properly in conversation and kept giving half-hearted answers that did not contribute to the progression of the chat. People that only came for the points but did not try very hard to use or challenge their English was frustrating. On the whole though, I honestly enjoyed English Chats. The instances shared above were few and far between, and people were usually sincere about using English.
- (d) Instead of sending individual emails summarizing chat sessions, I think the tutors should at some stage be able to get together and discuss what they talked about in their groups that week - especially to avoid talking about and repeating the same topics in the future. Also, I think the Advanced Chat space is not appropriate. The couches give it a nice, casual atmosphere but I often ended up with 5-8 people attending and there would be a shortage of furniture and seats. During exam periods, I think Chat sessions should also be moved. When I had Chats during the end of semester exams, I had a lot of the students around us trying to study be disturbed or look displeased that we were talking and making noise in our corner.

- (a) At the beginning my only reason was socializing and working in Japan as a paid tutor. Even though it has changed in time my first reasons were those.
- (b) There are so many thing that I would like to talk about but to sum it up, being a tutor helped me having interaction with other people than [people from my country] but Asian cultures are really different when compared to western culture. I believe I have become much more friendlier and understanding toward other cultures. For me being a tutor is a must be for students like me.
- (c) Sometimes I felt the pressure of not being a native English speaker. It wasn't a huge problem but it was unpleasant when I forgot some words. The Japanese way of education is fierce and so are the students which caused me to be surprised when I saw the competitive style of some people.
- (d) If the tutors could give the students assignments it might have a positive effect on the English that the students are willing to learn. Movie or documentary days can be added and so can the students talk about common knowledge.

英語チューター5

- (a) I wanted to help some students to try to speak out in English. Hoped that we can know and communicate with each other more and learn something new from others.
- (b) It was a great experience for me and also for my study life here. Although there are some unpleasant things happened, I enjoyed it and feel thankful for the chance I got.
- (c) It's hard to work with the people who comes from English speaking country, of course not everyone but some who feel too proud of being a person whose mother language is English. What I didn't enjoy is the lack of respect sometimes. But that's fine now.
- (d) As a student whose mother language is not English, I tried to have good conversations with everyone but it's also hard to overcome the language problems sometimes, especially working with the English speaking people. It's better to divide the English speaking and non English speaking tutors into different groups. Thanks for working here and the best wishes to all of you, of course. I hope FL-SALC can be better and better.

英語チューター6

- (a) My reason was primarily that I wanted to spend more time with Japanese

students and not just other internationals. I also had a lot of free time and wanted to do something productive. I think being an English tutor is also good for my CV.

- (b) I think I've become more confident with talking to people generally and improved my conversation skills. Equally, I've learnt a lot about Japanese life and culture, as well as getting specific tips on things to do and see, from the students.
- (c) Sometimes it can be very hard to find things to talk about with the beginners groups. The topic suggestion sheets are usually very helpful but many of the topics are too complicated or difficult for some of the beginners. I don't want to ask them the same questions each week and for them to be bored.
- (d) Perhaps students who come to multiple sessions can think beforehand if there are any topics they'd really like to discuss. This isn't necessary for every session but it might be very helpful for the regulars who already have good English-speaking skills.

教育・学生支援機構（英語企画部） ハドリー浩美
学務部教務課（FL-SALC アシスタント） 江部早苗
2014.5.12

<初修外国語>

2013年度 後期中国語チャットルーム 活動報告

1. 活動目的：初修外国語として中国語を学習する日本人学生の学習促進につなげる。
協定校の日本人学生と同年代の学生をチューターとして活用することで留学動機を高める。
2. 活動期間：後期 2013年11月14日～2014年1月31日（毎週木曜日5限 金曜日5限 計16回）
3. 活動内容：中国人留学生在チューターになり、中国語を使って簡単な会話を進める。
チューターが出身大学について紹介し、日本人学生が中国語で質問をする。
4. チューター 協定校の学生 4名（木曜日2名、金曜日2名）
5. 参加者人数
後期:11月14日 2名, 11月15日 5名, 11月21日 6名, 11月22日 2名, 12月5日 3名,
12月6日 3名, 12月12日 1名, 12月13日 5名, 1月10日 3名, 1月16日 2名,
1月23日 2名, 1月24日 2名, 1月30日 1名, 1月31日 0名
6. その他
・チューターからは、中国語の文法等に関する質問が出た場合、すぐに答えられない。あらかじめ簡単な説明（教材の調べ方など）があればいいという声が多かった。

朝鮮語チャット（2013年後期火曜5限FL-SALC第5グループ学習室）

文責：藤石貴代（人文学部）

開催日／韓国人留学生チューター氏名・所属／参加学生数

内容： 第5回「話してみよう！韓国語」新潟大会（2014年2月16日開催）

指定スキット台本の作成・発音指導

2013年12月17日：パクチゴク（人文学部4年）・リュジソン（イナ大学交換学生）／5名

2014年1月7日：キムウンチョル（イナ大学交換学生 国際センター）・リュジソン（同左）
／6名

同1月14日：パクチゴク（人文学部4年）・リュジソン（イナ大学交換学生）／6名

3回とも出席して熱心に指導を受けた教育学部1年の近藤愛夏さんと阿部隼英君のペアが
第5回「話してみよう！韓国語」新潟大会指定スキット部門（10組出場）で敢闘賞を受賞
しました。

ありがとうございました。

FL-SALC ドイツ語後期 2013 年活動報告

1. 開催と参加者

この学期ははじめて週 2 回の開催ができ、ドイツ語チャットを水・木曜日各 60 分設定した。水曜日は 10 回、木曜日が 9 回開催でき、全部 18 回開催ができ、1 回当たりにはチューター 2 名が担当したことも初めてとなった。全体的にリピーターが多く参加したと言える。

水曜日	チューター 2 名担当: Ole Stegelmann (Münster 大学) & Michele Ritter (Bochum 大学)	10 回	参加人数: 51
木曜日	チューター 2 名担当: Dorina Dinnus (Münster 大学) & 11月12月: Camilla Wehner (Nante 大学) 1月: Lars Eufinger (Bochum 大学)	9 回	参加人数: 21
合計	5 名	18 回	参加人数: 72

特に水曜日の参加者の中では、ドイツ語のレベルが幅ひろく、ドイツ語の初心者のレベルの参加者も、1 年間留学の経験者の中級レベルもいた。こうなると、ドイツに実際に行ってきた学習者はこれから留学する予定の学生にも知り合え、学生同士の情報交換にもつながったと思われる。参加者はどんな期待して参加するのか分りにくいので、水曜日・木曜日のドイツ語レベルや内容を決めておらず、チューターたちが開催にあたって、参加者の意見やニーズに合わせて、毎回テーマを考え、チャットを進めた。

曜日別参加者:

水曜日:

開催日	11/13	11/20	11/27	12/4	12/11	12/18	1/8	1/16	1/22	1/29
参加者数	6人	5人	9人	8人	7人	2人	2人	3人	6人	3人

木曜日:

開催日	11/7	11/14	11/21	11/28	12/5	12/12	12/19	1/23	1/30
参加者数	3人	2人	2人	3人	3人	2人	2人	2人	2人

2. 活動内容

なるべく授業ではない環境が望ましいため、あえて毎回のテーマをあまり固定しないような形で活動していた。とはいえ、少しだけのテーマの準備をしてもらい、参加者の要望に応じて、チューターたちと教員が相談しながら、内容を組んだ。

水曜日の初回ではチャット内容について皆と話し合いを行った。毎週異なったテーマや、なるべく話す機会をたくさん設けることを決めた。以下のテーマでチャットを進めた:

- ① ドイツでどんなゲームが普通？（ボードゲーム、グループゲーム）、
- ② 日本とドイツの食文化の違い
- ③ 正書法改正改革
- ④ スポーツ（2010年のサッカーワールドカップドイツ大会）や日本とドイツでの団結感
覚の違い
- ⑤ ドイツらしい、日本らしいとは何でしょう？
- ⑥ ドイツの教育制度
- ⑦ 海外でのドイツ・日本のイメージ
- ⑧ ドイツ語での丁寧・インフォーマルな話し方の使い分け方

12月中には2回に渡って、フランス後チャットと平行して、新潟の総踊りをテーマにした漫画についてのチャットも開催した。そこで面白かった点は日本人学生が新潟を舞台した漫画を留学生に説明することで、観点変換ができた点である。

木曜日は参加者のドイツ語レベルはベギナー（CEFR A1.2）であったこともあって、より簡単なテーマに取り組んだ。

- ① 日本語とドイツ語のことわざ
- ② クリスマスとお正月の日本とドイツでの過ごし方
- ③ ドイツ、日本、ヴェトナム（1人参加者はヴェトナム出身）の文化の違い
- ④ チューター作のドイツ語学習用ボードゲームや語彙ゲームの開発と実施
- ⑤ ドイツ語チャットのマスコット制作

3. チューターフィードバック（口頭報告や2013年度末アンケートより）：

特にチューターたちが評価したのは教員がいない環境という点であり、成績などのプレッシャー無しでターゲット・ランゲージを使用できるから、チャットという試みはチューターから見ると、大変良いというコメントを得た。

それは、ドイツ語チャット1回にチューター2人で担当して、ドイツ語ネイティブ1名対数人の学習者（教員1人対学習多数の教室のような状態）よりも、同じ目線の環境ができたからであった。その上にネイティブのチューターが2人いると、会話例にせよ、話すテーマの展開にせよ、キャッチ・ボールができるというのは特に良かったという報告もうけた。特に木曜日の2人のチューターの中の1人が日本語の完全な初心者であったため、参加者が実際に多くのドイツ語を使うようになった。

4. 教員コメント

まず、ドイツ語チャットを週2回、チューター2人で担当というかたちは大変良かったと思われる。授業と違った雰囲気の前め方が可能になるので、学習者・留学生ともにメリットがあるからだ。担当チューターの5人のうち3人が日本研究を専攻、副専攻している理由からかもしれないのだが、ステレオタイプや偏見、比較文化の意識が強く、ステレオタイプにとどまらず、異文化理解、自者・他者の再認識についてより突っ込んだ話し合いができた印象がある。2014年の前期では開催時間は60分で短いため、予算がゆるすかぎり、90分にバージョンアップしたいと思っている。

学生の参加可能な時間（専攻科目とのバッティング）の問題で、木曜日には参加者が比較的に少なく（平均で2人）、水曜日の方には参加者が多く（平均5人）見られ、その反省から、担当教員が2014年度前期の開催にあたって、ドイツ語チャット開催日について事前に参加者対象者の都合をドイツ語授業で聞いておくことにする。

参加者フィードバックとして、2014年度前期には担当チューターだけではなく、参加者たちからもアンケートを通じて、フィードバックを得たいと思っている。それを合わせば、より充実な活動ができるのではと思っている。

フランス語チャット活動報告 2013 年度第 2 学期

駒形 千夏

実施期間 2013 年 11 月 13 日～2014 年 1 月 22 日
実施日時 水曜日 16:30 ～ 17:30 (60 分間)
2013 年 11 月 13 日、11 月 20 日、11 月 27 日、12 月 4 日、12 月 11 日、12 月 18 日、2014 年
1 月 8 日、1 月 22 日
実施場所 附属図書館 2 階ラーニングコモンズ FL-SALC

2013 年 11 月 13 日から 2014 年 1 月 22 日までの 8 回に渡り、附属図書館 2 階ラーニング
コモンズ内 FL-SALC にて開催した。

前学期のチャット参加者は多い時で 10 名近くあったため、留学生 1 人が 2～3 名の参加
者の相手をするものとして、今学期の担当者数は 1 回あたり留学生 4 名と設定したが、勤務希
望者多数のため前半 4 回 (12 月 4 日まで) と後半 4 回 (12 月 11 日から) に勤務日を区切って
担当者を調整した。

開催告知は、前学期同様に開催初日直前に全学生への一斉配信メールにより行った。ただ
し、前学期はフランス語チャットのための告知内容であったが、当学期はドイツ語・中国語チャ
ットと並んで告知された。また、電子掲示板を活用し、開催期間中に渡って開催案内を掲載し
た。その他、教員・留学生・参加者の口コミにより、随時参加を呼びかけた。

そのようにして集まった参加者の間にはフランス語学習歴に差があるものの、入門レベル
の参加者には日本語運用能力の比較的高い留学生が相手をして、FL-SALC の蔵書に基づいて文
章の発音法を練習し、中級レベルの参加者はチャットを運営する教員が準備したプリントに基
づいて、語彙の習得および応用口頭練習に取り組んだ。